

■ (公財)大阪市博物館協会 平成26年度外部評価委員会 評価シート

大阪市立東洋陶磁美術館	担当委員名	中野 一輝
1. 「措置状況」について		
<p>【運営状況 総括】世界的に評価の高い東洋陶磁コレクションを核に持ち味を活かしつつ、歴史の盲点を掬い取るような優れた企画展を実施し、一方独自の国際交流を地道に展開するなど、その活動は賞賛に値する。館の規模が比較的小さいことを考慮すれば、陶磁に関心のある観客層をコアなリピーターにすることを事業運営の柱とすべきであるが、立地の良さや、外国人観客の増加等も視野に入れ、陶磁器の魅力を知ってもらう努力も必要である。平成26年度の後半に休館して改修が行われ、これまで指摘されていた問題点が幾分でも改善されることは朗報である。また、平成26年度中に予定されているHPの更新にも期待したい。</p>		
<p>【スペースの制約】展示スペースの制約、収蔵スペースの制約について対応に取り組んでおられることは評価するが、根本的にはスペースの拡大が必要とされる。</p>		
<p>【外国人観光客の受入れと多言語対応】関西国際空港の外国人乗客数が日本人乗客数を上回ったことが示すように、国の観光重視政策による影響は想像を超える変化をもたらしている。この変化を良い方向で受入れるために、多言語への対応が重要である。展示品表示、説明書、ビデオ案内、HP等にヨーロッパ言語と共にアジア言語をも加えるべきであろう。</p>		
<p>【ブランド化と学芸員の確保】館のブランド化については、海外の大規模博物館に共催展を進めるなど向上に取り組んでおられる。当館は立地、施設、コレクション面で恵まれており、固定的なファンも多く、実力あるボランティアも育っていることから、館のイメージをより高める魅力的な展示企画を続けてほしい。そのためには、調査研究活動を強化すべきであり、絶対的に少ない学芸員の数を増やす必要がある。</p>		
<p>【展示・来館サービス】</p>		
<p>①展示ルートに対する要望としては、高齢者や障がい者の人達に対する配慮の問題がある。当館の展示スペースは2階及び3階にあり、出入口は1階にある。基本ルートは階段を使うことが前提とされており、エレベーターは補助的使用となっている。今やエレベーターの利用やバリアフリーを考えた観賞ルートの設定が必要である。</p>		
<p>②多くの人が指摘する事項として、観賞ルートの長さがある。研究目的を持った専門家は別として、一般の観覧者は長時間の滞在は予定してないと思われる。旅行者は短時間にエッセンスを知りたいと望み、市民及び近隣の来場者はお気に入りのルートを選び観賞することを望んでいるのではないか。その意味で、ジャンル別ルートやショートカットルートを作り案内することも必要なのではないか。ルートの中では人気があって、いつも混み合っている箇所や静かでゆっくり観賞できる箇所があるものである。そこを上手く切り分けて、スムーズな観賞が出来るように対処すべきである。</p>		
<p>③特別展の来場者は、目的を持って見に来ておられるのであり、そのプログラムを如何に良く理解して満ち足りて帰れるかということに期待があると思われる。故に展示方法や解説の見易さ解り易さが重要になるが、この点について措置状況は大いに改善している。ただ、ビデオ説明が一カ所だけであり、又、内容についても吟味の必要があると思われる。多言語対応も含めてもう少し充実出来ればより良いと思われる。</p>		
<p>【友の会】友の会の活動については、陶磁器に対する人々の関心は高いので、ニーズを把握してきめ細かく対応して会員数を増やすように努力してほしい。</p>		
<p>【中之島の立地について】近い将来予想される中之島ミュージアム・アイランド構想にあって都心の真珠、オアシスとなることを期待されている。大阪市・大阪府も賑いの創出にこのほか力を入れており、館を中心とした地域の周辺マップの作成や共通のイベントの呼び掛け等出来ることからやってみてはどうか。</p>		
<p>【リスクマネジメント】バリアフリーが十分でない現状で、非常時にスムーズに避難できるのかも一度点検してほしい。</p>		
<p>【共催・連携】近畿地方には陶磁器の優品を豊富に所有されている美術館が多く存在する。それらとの共催や連携を進めてみてはどうか。</p>		
2. 【自己評価シート】《改訂版》について		
<p>世界で最も洗練された陶磁専門美術館として収蔵品の素晴らしさ、活動の実績、所在する立地の有利さについては、全く疑う余地もなく素晴らしいものである。しかし、一般市民が気楽に来場する雰囲気があるか、展示品に親しみを感じてもらえるか、という観点からすれば今一つ工夫が必要なのではないか。中之島に来たら、ちょっと寄ってみたいと思わせる場所にぜひなってもらいたい。</p>		

3. これからのあり方についてのご意見

【今後の課題 — 施設設備・観賞ルートなど】

1. 入口のドアは黒々としていて、重々しい。更に、入口部分は石造りの階段作りであり、ハンドレールもなく、高齢者や障がい者に配慮されていない。スロープは非常に使い難い。施設設備、接客サービスも含め、入場しやすい環境とは言えない。
2. 風防室や入館後の受付スペースは圧迫感を与える。石造りの階段を通過して、2階へと導かれる動線は人間的な暖かさに欠ける。
3. 美術品の観賞ルートは単一で長く、続けて観賞するには疲れる。途中で脇へ抜けて観覧を止めたり、休憩したりするルートが必要である。
4. 喫茶コーナーについては、暗く、隔離された感じで魅力に欠ける。もっと明るく入り易い施設に改修した方がよい。又、美術館閉館後（17時以降）の営業について検討してほしい。

4. その他(設置者への要望等)

現在美術館の展示スペースは、2階部分全てと一部3階部分にある。それなら展示ルートは2階と割り切り、入場者に始めから2階に上がってもらい、バリアフリー化を図ってはどうか。

一つの案としては、喫茶スペースの改修と合わせて喫茶スペース西側の建物の外側、銅像の在る場所に2階建ガラス張り、エレベーター付の張り出し施設を作ることにより1階はフリースペースとして作品紹介、ミュージアムグッズスペース、レストランを設け、2階をメイン観覧入口として受付、ロッカー、図録・図書閲覧コーナー、ビデオ解説室等を作れば一挙にバリアフリー化が実現すると思われる。本館と新館をつなぐ部分にも2階にブリッジを作り、フラットに行き来出来るようにすることは必須である。ガラス作りの明るいサテライト施設が出来れば中之島のライトハウスとして、市民や観光客が集まり、中之島の賑い創出に貢献出来るであろう。これらの対応には、勿論大阪市の措置が必要であるが、張り出し施設については長期間の指定管理者制度を利用する等工夫の余地があるのではないか。（参考イメージ図添付）

